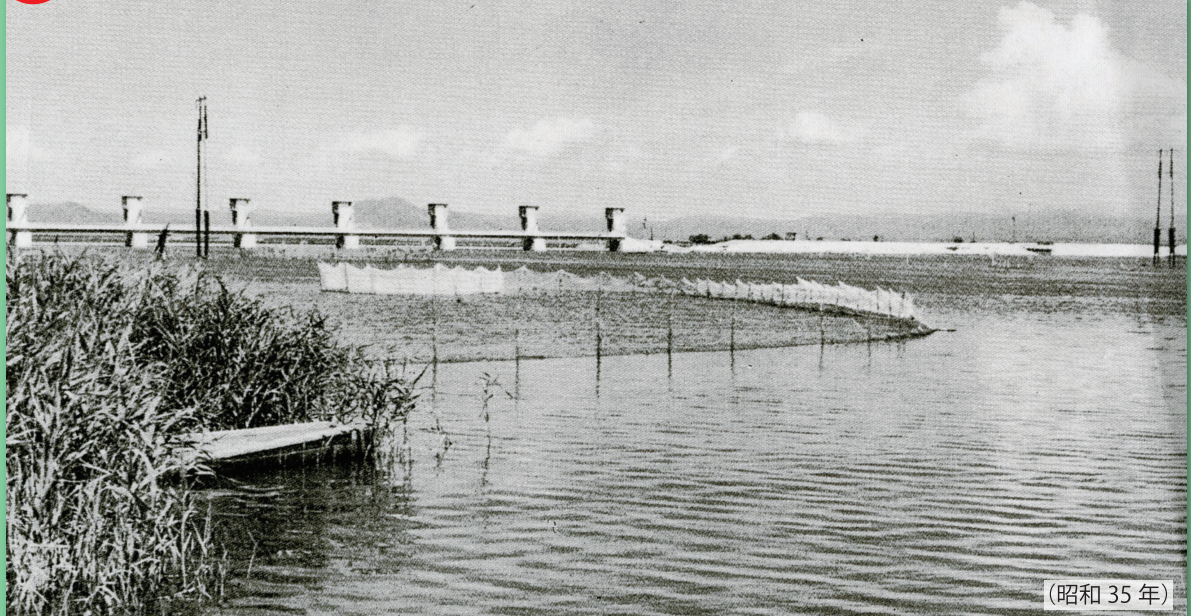



**1** はちろうがたちょうせいち  
**八郎潟調整池**



(昭和 35 年)


かつては東西12キロ、南北27キロ、面積約22,000ヘクタールに及ぶ日本第2の大きさの湖でしたが、昭和32年から昭和52年にかけて干拓事業が行われ、4分の3が干拓されました。残りの水面は調整池、水路となり、ここからの水は防潮水門を経て船越水道から日本海に流れ出ています。

**2** はちりゅうじんじや・ぎよるいくようつが  
**八龍神社・魚類供養塚 (市指定文化財)**



八郎潟の神、八郎太郎を祀る神社です。境内には八郎潟などで獲れたワカサギやボラなどの魚類供養塚があり、漁民の信仰が深かったことが分かります。

**3** はちりゅうぼし  
**八竜橋**



菅江真澄の道


明治13年(1880)天王・船越間に両村の負債返済のため有料渡橋として完成しました。有料は同19年まで続きました。昭和51年に現在の橋として改修されています。

**6** りんしょう ぜんしょう  
**林照山善昌寺**




浄土宗の寺院で、元は古屋敷という所にあつたといわれています。開基は当時の男鹿の大庄屋であつた森元祐全で、本尊の阿彌陀如来像は春日作の古仏といわれています。

**7** ほうち ぜんぎょう  
**寶池山善行寺**



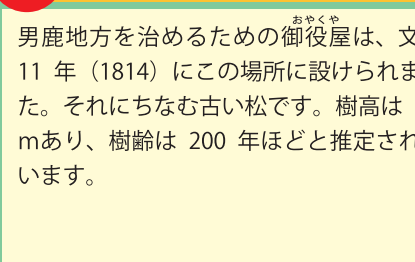
浄土真宗大谷派の寺院で開基は能登(石川県)光徳寺の二男で、天正2年(1574)日本海を北上してこの地にたどりつたと伝えられています。

**4** とうこやさかじんじやさい とうにんぎょうじ  
**東湖八坂神社祭の統人行事 (国指定重要無形民俗文化財)**




毎年7月7日に船越水道上で行われています。2艘の舟に結び渡した2本の綱の上で、くも舞人が3回宙返りします。これはヤマタノオロチを演じているといわれています。

**5** おやくや  
**御役屋の松**




男鹿地方を治めるための御役屋は、文化11年(1814)にこの場所に設けられました。それにちなむ古い松です。樹高は6.2mあり、樹齢は200年ほどと推定されています。

**8** せいえい えんのう  
**貴榮山円応寺**



浄土真宗大谷派の寺院で、元は古屋敷という所にありましたが後に移転したといわれています。境内に郷土の俳人貝塚静薫の句碑があります。月見れば水のふるさと思うかな。

**9** ほうじゆ りゅうもん  
**寶珠山龍門寺**



曹洞宗寺院で寛永年間(1624~44)の開創といわれます。境内には太平洋戦争の戦没者を祀る忠霊殿があり、中には遺影が掲げられています。

**10** じゅほう せいしょう  
**鷲峰山清松寺**




蝦夷錦九条袷袋 (市指定文化財)



曹洞宗の寺院で大本山永平寺の直属の寺として明治14年(1881)に開創されました。その際永平寺から贈られた蝦夷錦の袷袋は大変貴重なものです。蝦夷錦とは、蝦夷地(北海道)を経由して伝わった、中国清朝時代(1636~1912)の絹織物です。

**11** ほうろう ぎょうりんいん  
**法雨山堯林院**



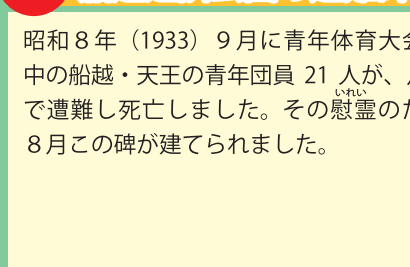
日蓮宗の寺院です。干ばつの祈とうにより雨を降らせて人々をすくったとして藩主から法雨山の山号をたまわりました。

**12** あめりかこくじんじょうりくえまき  
**亞米利加国人上陸絵巻 (市指定文化財)**



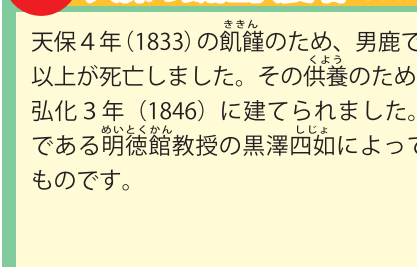
船越の村役人であつた鈴木重孝による模写絵巻です。『黒船航図』とも呼ばれており、黒船やペリー提督の様子を描いています。当時の社会情勢がわかる貴重な史料です。

**13** ふなこしきんりんこうえん そうなんひ  
**船越近隣公園の遭難碑**




昭和8年(1933)9月に青年体育大会に行く途中の船越・天王の青年団員21人が、八郎潟湖上で遭難し死亡しました。その慰霊のため翌9年8月この碑が建てられました。

**14** てんぼう ききんくようとう  
**天保の飢饉供養塔 (市指定文化財)**



天保4年(1833)の飢饉のため、男鹿では2500人以上が死亡しました。その供養のため13回忌の弘化3年(1846)に建てられました。文は藩校である明德館教授の黒澤四如によって書かれたものです。


**15** いっこういせき  
**一向遺跡**



発掘された井戸跡


ここは古屋敷といわれ、榎村とも称しました。元龜年間(1570~73)に家が96軒あつたといわれます。当時の井戸跡や使用した箸・陶磁器などが発見されています。

**16** おがおほし  
**男鹿大橋**



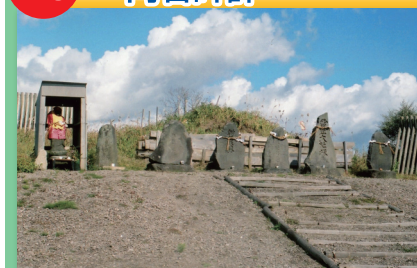
男鹿に入る道路の橋梁として昭和49年に完成しました。長さは410mです。

**17** おがそうこうかんこうあんないしょ  
**男鹿総合観光案内所**



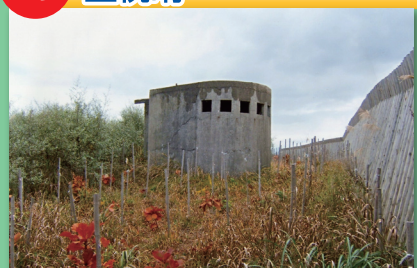
平成19年に完成した観光案内所です。入口には巨大なナマハゲ像が立っており、男鹿観光に訪れる多くの人々を迎えています。

**18** いっこうせきぐん  
**一向石碑群**



一向の海岸近くにあり、これは近年、近くにあつた石碑をここに集めたものです。魚類供養塚やはたはた供養塚、地蔵などが立っています。

**19** かんししょう  
**監視哨**



太平洋戦争中に設置されたといわれています。敵の航空機や海上を監視するため、地元の小学生や青年団などが日夜交代で見張りを務めたそうです。

**20** ふなこしほんちやう やしきわ  
**船越本町の屋敷割り**



幕末に多くの外国船が日本の沿岸に來航しました。その対策として、船越本町は嘉永7年(1854)に作られ、拠点とされました。

**男鹿のナマハゲ (国指定重要無形民俗文化財)**

大晦日の晩に行われます。災いを祓い豊作豊漁をもたらす神として、各家で丁重にもてなされます。船越地区の一部でも行われています。